

お わ り に

平成 15 年度から本研究主題での研究が始まって今年度でまる 5 年が経ち、いよいよまとめの段階を迎えました。「からだづくり」「自立活動」「授業づくり」「里山」「サポートブック」「情報」「進路」「教育相談」の 8 つの研究グループは 3～5 年にわたりそれぞれのテーマや内容で研究を積み上げてきました。

「目の前の子どもから出発する」という視点を大切にしながら、教員各自がもっている興味・関心や課題をベースにしたグループ研究という体制は、軽快なフットワークと熱意をもって積極的な討論が期待できるという長所をもっています。この 5 年間、校内のあちらこちらで、グループのメンバー同士が頭をつきあわせて話し合っている様子が見られました。時にはグループとして県外の学校や施設に見学・研修に行き、見識を深めてきたということもありました。教員各自の研究に対する意欲が以前より高まったのは確かだと思われます。

しかしグループ別の研究の弊害として「研究成果の広がりが乏しくなる」ということが挙げられます。本校でも過去にその反省のもとに学校としてテーマを設定した研究にシフトチェンジしたという経験がありました。そこで今回の研究体制では毎年 2～3 回、各グループの報告会を行うようにしました。また 3 年目には校内ワークショップという形で、各グループの実践を全教員が経験するという取り組みをしました。この二つの方法によって今では全教員がどのグループの研究であってもその内容・成果をそれなりに説明できるようになっています。研究の広がりという面で評価できる点ではないかと思っています。

また今回の研究体制では基本的に、グループ毎に大学の先生方にご指導・ご協力をお願いしました。実際には金沢大学だけに留まらず他の大学や福祉施設の職員とも協力体制が生まれ、結果的に研究の中身が充実し大きな成果が得られたと自負しています。ご協力いただいた多くの方々にはこの紙面を借りて心からの謝意をお伝えいたします。ありがとうございました。

本研究主題での教育研究は今年度で一段落し、次年度から新たなテーマ・内容・体制で研究がスタートすることになります。本校あるいは特別支援教育をとりまく状況は大きな時代の変化に直面しています。次年度からの研究においても、常に目の前にいる子どもたちからスタートし、過去に習い、未来を見据えた研究でありたいと思っています。

今後とも諸先生方のご指導・ご鞭撻を心からお願いいたします。

副校長 辻 俊

研究同人

校 長 山 岸 雅 子
副 校 長 辻 俊
学内教頭 石 井 雄 史

小 学 部 今 井 康 弘
吉 川 開
高 鍬 裕
原 恵 一
柳 生 美 由 季
山 田 富 美
松 尾 裕 美
福 田 貴 子
中 嶋 智 慧

中 学 部 神 谷 みつ江
新 保 利 久
田 村 吉 治
荻 野 稔 朗
岩 沼 見 奈
今 川 陽 子
田 川 由 美
竹 下 規 美 代
浦 宏 和

高 等 部 山 本 仁
三 宅 和 憲
橋 本 直 紀
小 足 進 午
村 瀬 真 理 子
下 野 令 子
近 藤 明 子
清 水 雅 恵
尾 山 登 志 子

鶴 尾 千 亜 紀

自 立 活 動 河 野 俊 寛
養 護 教 諭 西 田 志 伸
情 報 担 当 武 田 真

旧 同 人 齊 藤 和 夫
榎 蔵 千 恵 子
山 崎 晴 生
能 村 重 信
竹 内 君 江
箸 本 淳 也
灘 和 華 那
大 橋 英 雄
三 宅 伸 男
中 谷 亜 樹
大 井 学
寺 倉 万 喜
原 田 絹 子
堀 井 和 子
今 井 理 恵
平 戸 哲 郎
時 国 美 佐
小 松 正 和
田 中 友 佳 子
酒 井 博 長
大 塚 巖
松 本 賢 二
荒 木 敏 彦
花 本 ヨ シ エ
中 田 圭 子
今 井 理 恵
小 岩 正 敏
酒 井 智 美
木 下 聡 子
浦 田 東 作
河 合 利 秋
永 山 沙 緒 利
島 田 勝 浩
川 井 久 也
中 村 祐 樹
青 葉 紀 子
野 尻 直 人
井 上 智 文